

令和7年度学校評価計画書

学校名（阿品台東小学校）

評価計画					自己評価					学校関係者評価 コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成の方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成度	評価	・結果と課題の分析		
基礎・基本の定着	◎基礎学力の確実な定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 標準学力調査の結果の共有と抽出児童（ステップ2）への全職員によるアセスメントの実施 全ての児童が参加し、わかる授業づくり（UD・ICT活用） デジタルドリルや音声計算活動等による既習事項の反復練習や語彙を増やす活動 学びを自己調整できるような振り返りの充実 地域学校協働本部と連携した放課後学習の実施 	<p>☆廿日市市学力定着状況調査（4年・1月実施）にあわせて3年生以上で実施する標準学力調査（国語・算数）の結果、ステップ（到達度）1・2の割合。</p> <p>☆学期末単元テスト（国語・算数）の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の結果、学級平均の結果が期待平均値を上回った学級数。</p> <p>☆児童アンケート 「振り返りをすることで、勉強した内容や学び方、役に立つか等について考えることができた。」</p>	<p>国語 30% 未満 算数 30% 未満</p> <p>8/11 学級</p> <p>80%</p>	<p>—</p> <p>7/11 算 5/11</p> <p>86%</p>	<p>—</p> <p>75%</p> <p>108%</p>	<p>—</p> <p>C</p> <p>A</p>	<p>・学年末単元テストの期待平均値を上回ったクラスは、国語「知識・技能」は7クラス、「思考力・判断力・表現力」は7クラス、算数「知識・技能」は8クラス、「思考力・判断力・表現力」は2クラスであった。</p> <p>・算数の思考力については課題があるが、基礎的な計算力等については、昨年度より改善傾向で、音声計算やドリルプラネット等の反復練習の成果が見られた。</p> <p>・国語の漢字や言葉については概ね定着してきているが適宜、既習事項の復習を行ったり、実態に応じた反復練習を行ったりすることが必要である。</p> <p>・学習の振り返りについては、授業の終わりに位置付けて取り組んでいる。学習した内容や生活に役に立つかといったことは考えることができていた。</p>	<p>・学習支援に入っていると、「6」か「0」かの区別がつかずに数字を書いて計算ミスをしている児童がいる。日頃から、数字を丁寧に書くことでミスも減るのではないか。</p> <p>・課題が早く終わった児童が所在無さげにしている姿を見かける。早く終わったら何をするのか見通しを持たせ、自分でどんどん進めていく体制を作るとよいのではないか。</p> <p>・振り返りを書く時間をしっかりと確保することが大切。今後も児童がしっかりと考えて記述する時間の確保をしてほしい。</p>	<p>・既習事項の復習や、実態に応じた反復練習を継続する。</p> <p>・振り返りを書く時間をしっかりと確保し、学習した内容を言語化したり自分の学び方についても振り返ったりすることができるようとする。</p>	
主体的に課題解決をする児童の育成	自分で考え自分で取り組む児童の育成	<p>【教科指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 選択と自己決定及び対話の場を設定した授業づくり 自ら学びに向かえるような学習環境の整備 児童主体の課題解決学習の充実（総合的な学習の時間を中心に全教科で） <p>【生徒指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 代表委員会や委員会活動を中心とした、児童主体の活動の充実（学校をよりよくする運動、ゆびとま等） <p>【健康教育部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活きらり週間による生活習慣の見直しと取組 	<p>☆全国学力・学習状況調査児童質問調査 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の割合」【市共通項目】</p> <p>☆児童アンケート 「問題や課題について、自分で考え、自分から進んで取り組んでいる。」（教科指導部） 「よりよい学校生活を目指して、自分で考え自分で取り組んでいる。」（生徒指導部）</p> <p>「生活課題を自分で考え、取り組むことができた。」9月・1月実施（健康教育部）</p>	<p>80%</p> <p>80%</p> <p>75%</p> <p>70%</p>	<p>73%</p> <p>85%</p> <p>84%</p> <p></p>	<p>91%</p> <p>106%</p> <p>112%</p> <p></p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>・全国学力の質問調査では昨年度の86.8%から13%減少した。また、児童アンケートでは、全校では目標値を上回ったが、高学年児童は肯定的回答が77%であった。自由進度学習など自分で選んで学習に臨む経験を積めた一方で、自分に必要な学力を補充する時間や機会が不足しており、主体的に学習に臨めるような場を設ける必要があると考えられる。</p> <p>・児童の主体性を尊重した活動の推進により、よりよい学校づくりに対する認識が高まるとともに、活動に参加した児童の達成感や満足度が肯定的な回答につながっている。</p>	<p>・セルフコントロールができる児童は、学力が高い傾向にある。それは、学習やその他の学校生活への取組にも好影響をもたらす。生活リズムを崩さないように、家庭でも学校でも意識していくことが大切。</p> <p>・SNSの使い方の課題については、全ての評価項目に関わってくると思われる。長時間、深夜までSNSを使っている児童は、登校時に元気が見られない傾向にある。「きらり週間」などでの取組を通して、保護者にも生活リズムを整えることの大切さに意識を向けてもらえるように発信でいるといいのでは。</p>	<p>・自分に必要な学力を補充する時間や機会を保障し、主体的に学習に臨めるような場を設ける。</p> <p>・児童にとって必要感のある話題で友だちと対話をする場を設け、課題解決能力を育てる。</p> <p>・今後も、児童の課題意識を基にテーマを設定し、可能な限り児童の主体性に委ねた効果的な活動を推進する。また活動に対する職員の好意的なフィードバックや児童相互の評価活動を通して価値付けをしていく。</p>	

<p>自己有用感の育成 (中学校区共通)</p>	<p>◎「つながり」の主体化・日常化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の主体的活動の工夫・充実 <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆびとま」等の児童の思いや願いを実現させる日常的な取組 ・ピア・サポートの活動（行事、学習） ・ひがしみつけ（掲示で共有する） ・縦割り班掃除の充実 ○居場所感を高める取組の導入 <ul style="list-style-type: none"> ・安心できる学級づくりの理論研 ・適応間尺度（アセス）を反映した児童理解と個別の支援 	<p>☆児童アンケート 「自分はまわりの人の役に立っていると思います。」</p> <p>☆児童アンケート 「自分のよさは周りの人から認められている。」</p>	<p>80%</p>	<p>76%</p>		<p>95%</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年児童と比較して高学年児童の回答に否定的な傾向が表れている。 ・児童への他者評価が可視化され、児童が適切に肯定的な自己評価ができる手立てを効果的に用いる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年が低学年に比べて肯定的な回答が低いのが気になった。 ・異学年で活動することが日常化しており、当たり前のことになっているため、「できている」という認識が薄いのではないか。 ・日常的に取り組んでいるピア・サポートやひがしみつけ、縦割り班活動等について、職員の肯定的なフィードバックや児童相互の評価活動を通して、価値付けをしていく。
<p>健康的な生活と運動への関心の向上</p>	<p>体を動かすこととが楽しいと感じる児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間を通した体を動かす活動（体力つくり） <ul style="list-style-type: none"> ・学級遊びや縦割り・全校遊び等の取組 ・児童主体の体を動かすイベント（年に1回） ・体育の授業における工夫（職員研修） 	<p>☆児童アンケート 「外で運動したり遊んだりしています」（アンケート問11）</p>	<p>80%</p>	<p>83%</p>		<p>104%</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体でのアンケートの肯定的な回答は目標値を超えており、しかし、高学年だけを見していくと、否定的な意見の割合が大きくなっている。児童主体の体を動かすイベントとして体育館を開放し全体遊び等の取り組みを行うのが効果的ではと考えている。 また、全体での否定的な回答の要因として、「暑さ」が考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・否定的な意見の要因として考えられる「暑さ」の対応として、室内で行える運動を推奨していく。暑さにより外で遊べないという日が続いたためアンケート内容の検討も行う。
<p>教職員が自らの意欲と能力を發揮できる教育環境の整備</p>	<p>◎子供と向き合う時間の確保に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリエイティブデーの充実 ・定時退校日の設定 ・会議の事前の時間設定（資料の事前配布含む） ・部会、学年会等における業務改善（見直し、整理等）の充実 	<p>☆教職員アンケート 「子どもと向き合う時間が確保できていると感じる。」</p>	<p>80%</p>	<p>72%</p>		<p>90%</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・28%の教員が子供と向き合う時間の確保ができないと感じている。業務内容の偏りにより負担がかかっている教員が28%に含まれているとすれば業務内容を公平にすることも一考しなければならない。 ・クリエイティブデーの確保や研修回数など必要最低限に設定している。これ以上の時間の確保は難しい現状がある。 ・生徒指導上の課題の負担も起因している。生徒指導の未然防止が重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示されている退校時刻を守り、できるだけ早く退校できるように声をかける。 ・会議を水曜日には入れないようにして、定時に退校できる職員を増やす。 ・本校の実態に合った「チーム担任制」を取り入れ、チームで児童を見ることにより、職員が時間にゆとりが生まれたと実感できるようにしていく。
<p>開かれた学校づくりに努め、家庭・地域との協働・信頼関係を構築する。</p>	<p>地域への关心と愛着を持たせる教育活動を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域への迅速かつ適切な対応 ・コミュニティースクールの活性化 ・通信、HPによる情報発信 	<p>☆保護者アンケート 「学校の取組に満足している。」</p>	<p>90%</p>	<p>95. 6%</p>		<p>106%</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの保護者には肯定的な評価をいただいているが、一部の保護者には、満足してもらえていない傾向がある。今回のアンケートにあがった意見に対して、可能な限り答えていくなどして、さらに満足度が上がるよう努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導対応や環境整備など、児童が安心安全に学校で過ごせるよう職員や地域の方々との連携を更に密にする。 ・保護者アンケートからの要望に可能な限り応えていく。例えば「学校だより」に翌月だけでなく翌々月の前半の予定を示すようにする。

A : 100% B : 100%未満～80%以上 C : 80%未満～60%以上 D : 60%未満

○ 短期経営目標のうち、本年度の重点目標については、◎印で示し、◎印は全体を通して3項目以内とする。

○ 重点目標を中心に「評価項目・指標」（めざす姿）を精選し、取組を進めること。

○ 別途提示している「廿日市市学校評価共通項目」が「評価項目・指標」に含まれていることを確認すること。（【市共通項目】⇒廿日市市教育委員会の重点施策）

